

高齢者孤立死防止ガイド



社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会

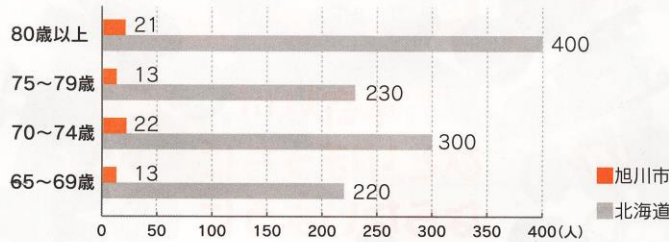
孤立死ってなに？

- 旭川市で、誰にも気づかれずに亡くなった65歳以上のひとり暮らし高齢者は69名！（平成18年）
- 北海道では1,150名で、平成12年に比べると2倍以上の増加！（平成18年）
- ひとり暮らし高齢者が増えて、隣近所など地域社会とのつながりが希薄になってくると心配されるのは「孤立」です！そして、「孤立」している方には「孤立死」が心配されます！

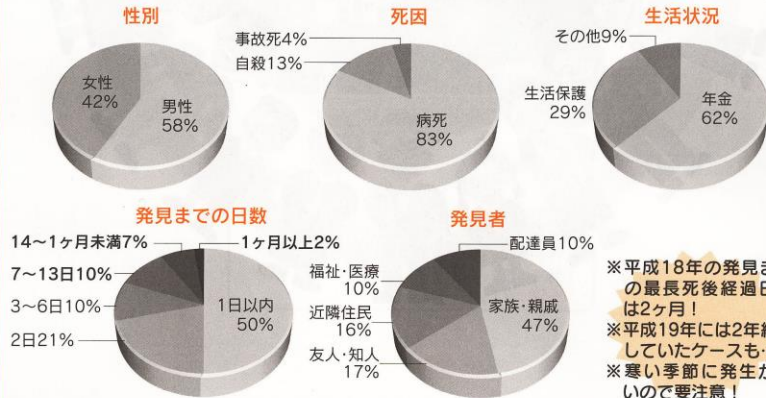
孤立死とは…

ひとり暮らし高齢者が地域社会から孤立してしまい、亡くなられる前後に誰にも気づかれることなく、死後かなり時間が経ってから発見されること。

平成18年の誰にも看取られずに亡くなったひとり暮らしの高齢者数(年代別)



平成18年の旭川市の69名の内訳



旭川市でも、これからさらにひとり暮らし高齢者が増えていき孤立してしまう方も増えると考えられます。ご本人も、その周囲の方々も、お互いにいざという時の安全対策(セーフティーネット)を日ごろから準備しておきたいものです。

ひとり暮らし高齢者の現状と近所づきあい

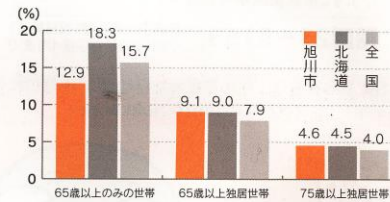
- 全国的にひとり暮らし高齢者が増えています！
- 旭川市は、65歳以上のひとり暮らし高齢者世帯、75歳以上のひとり暮らし高齢者世帯がともに全国や北海道の割合を上回っています！

ひとり暮らし高齢者の現状は？

(平成17年国勢調査)

世帯数	旭川市		北海道		全国	
	平成12年	平成17年	平成12年	平成17年	平成12年	平成17年
一般世帯数	146,400 (100%)	150,384 (100%)	2,277,968 (100%)	2,368,892 (100%)	46,782,383 (100%)	49,062,530 (100%)
65歳以上の人のみの世帯数	16,645 (11.4%)	19,471 (12.9%)	347,731 (15.3%)	434,121 (18.3%)	6,049,257 (12.9%)	7,691,058 (15.7%)
65歳以上の独居世帯数	10,604 (7.2%)	13,686 (9.1%)	168,338 (7.4%)	212,086 (9.0%)	3,032,140 (6.5%)	3,864,778 (7.9%)
75歳以上の独居世帯数	4,646 (3.2%)	6,863 (4.6%)	75,061 (3.3%)	107,563 (4.5%)	1,393,063 (3.0%)	1,966,953 (4.0%)

高齢者世帯の状況比較(平成17年)



旭川市の65歳以上ひとり暮らし高齢者世帯数は、平成12年と平成17年では29.1%も増加しており、今後も増加していくことが予想されます。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の世帯数の将来推計(全国推計)の概要-平成15年10月推計」によれば、平成37年にはこうした65歳以上のひとり暮らし高齢者世帯は全国で680万世帯(全世帯の37.1%)になるといわれています。

ひとり暮らし高齢者の近所づきあいは？

- 少なくなっています！
- 都市化や個人の価値観の変化等により、近隣住民の交流が弱まり、地域のつながりの希薄化は一層顕著になってきています。

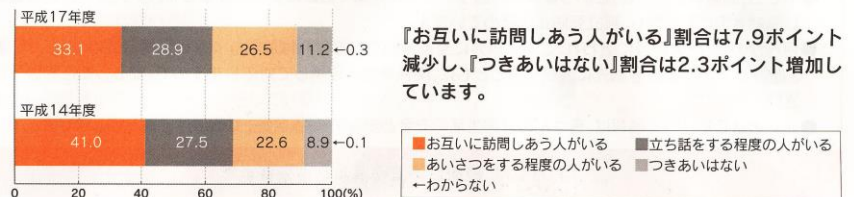
Q.近所の人とどの程度つきあいをしていますか？

- 「お互いに訪問しあう人がいる」ひとり暮らし高齢者は………33.1%
- 「つきあいはない」ひとり暮らし高齢者は………11.2%

内閣府「平成17年度世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査」

●平成14年度と平成17年度の調査を比較すると

近所づきあいについて



孤立死防止の取り組み

旭川市社会福祉協議会の取り組み

ひとりぼっちで暮らす高齢者が地域社会から「孤立」しないよう、地域の皆さんで見守る活動を進めています。

安否確認事業

対象者

- 概ね75歳以上のお一人暮らしの方。
- 概ね65歳以上のご夫婦世帯で、どちらか一方が寝たきりの方等で、**ご本人が希望した場合に対象**となります。

方法

担い手の方々が「訪問」「電話」「行動パターン」のいずれかにより、週2回の安否確認を行います。

担い手

地区社協、民生委員、町内会、市民委員会、隣近所の方々、老人クラブ、ボランティアなど、地域のいろいろな方々が見守ってくれます。

ふれあいサロン

目的

- 仲間づくり ●生きがいつくり ●健康づくりなど

内容

- お茶をしながらおしゃべり。
 - 簡単な健康体操やゲーム。
 - 健康相談やお食事など。
- ※サロンの開催場所や参加費などについてお問い合わせ下さい。

心配ごと相談センター

日ごろの生活の心配ごと、悩みごとの相談を無料で応じます。※秘密は厳守します。

電話23-5153 開設日/月～金(祝日除く)
午前10時から午後4時まで

地域包括支援センターの取り組み

地域包括支援センターは、高齢者が住みなれた地域で健やかに安心して暮らしているために支援を行う機関です！

- 本人や家族、地域の方から高齢者の皆さんに関する様々な相談を受け、相談の内容に応じて、電話での対応、自宅への訪問等を行い、適切なサービス等につなぎます。
 - 相談を受けたひとり暮らし高齢者等に対し、関係者と連携することで、孤立死防止に取り組んでいます。気になることなどありましたらご相談ください。
- 地域包括支援センターは、旭川市からの委託を受けた機関で、市内に9カ所あります。お住まいの住所によって担当が決まっています。

くわしくは、最寄りの包括支援センターまたは、市介護高齢課地域支援係 電話25-5273まで

民生委員児童委員の取り組み

孤立死を防ぐために、私たちは、地区社協や市民委員会福祉部等と手を取り合って活動しています。

- 見守りが必要なひとり暮らし高齢者世帯への声かけを、訪問や電話で定期的に行っています。町内会や地区社協のみなさんにも協力いただいています。
- また、比較のお元氣な高齢者に対しても、さりげなく目配りをしています。
- 最近では、高齢者が悪質商法に遭うケースが増えていますので、「悪質商法にだまされるな」を合い言葉に声かけをしています。

くわしくは、担当の民生委員児童委員または、市福祉総務課生活福祉係(5月1日からは福祉保険課 地域福祉係) 電話25-6425まで

くわしくは、旭川市5条通4丁目 旭川市ときわ市民ホール1階 社会福祉法人旭川市社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉事業担当まで電話23-0742 Eメールアドレス:chiiki@north.hokkai.net

みんなが見守っています



警察の取り組み

警察では、巡回連絡を行っています！

- 交番の警察官が皆さんのご家庭を訪問し、事件や事故の防止についての指導や連絡、ご意見・ご要望等を聞く活動です。
- 中でも「高齢者支援活動」という高齢者の困りごとなどを聞く活動は重要な仕事です。もちろん、ひとり暮らし高齢者宅にも訪問し、孤立死防止に努めています。
- 何らかの事件・事故等に遭われ、ご本人以外に至急連絡をしなければならなくなった場合には、あらかじめお聞きしていた緊急連絡先に連絡するとともに、関係機関と連携して対応しますので、安心してご相談ください。
- 巡回連絡で知り得た情報は、皆さんの日常生活の安全と安心の確保に役立てる以外には活用しません。

くわしくは、最寄りの警察署または交番まで

町内会の取り組み

隣組の気持ちで高齢者への声かけ・見守りをしています！

- 全世帯の戸票を作って高齢者がいる世帯に声かけ・見守りを行っている町内会。
- 安心カードを作ってひとり暮らし高齢者に声かけをしながら配布している町内会。
- 民生委員や地区社協と連携しながら見守りを行っている町内会。
- 雪はねを通して声かけ・見守りを行っている町内会など、**私たちが安心して暮らすための一番身近な組織**です。

くわしくは、ご自分の住む町内会長または、市生活交流課市民交流係(5月1日からは市民活動課 市民活動係) 電話25-6012まで

消防の取り組み

災害弱者緊急通報システム (ホットライン119)

- 家庭で火災・ガス漏れ・事故・具合が悪くなったときなどの緊急事態が発生したとき、小型無線発信器やセンサーにより、消防指令センターへ自動的に通報し、救急車・消防車の早期出動で、すみやかな救援・救護体制を確立するシステムです。
- ひとり暮らし高齢者の急な体調変化や事故などにも早期に対応します。
- 利用には条件があります。



くわしくは、消防本部市民安心課 電話21-4119まで

孤立死ゼロをめざして

●孤立をしないこと、それは高齢者が様々な人たちとの関係を築くことです。その関係をたくさん作りましょう。

「孤立死」を防ぐためには、日ごろからの「顔の見える関係」が大切です！



ひとり暮らしのお年寄りとそのご家族のみなさん、**「助けられ上手」**になってください！

みなさんの身近には多くの「頼れる方々」がいて、「頼れるサービス」があります。こうした人やサービスはみなさんがSOSを出せば必ず助けてくれるはず。困ったときはお互い様の気持ちを持っています。

孤立死を無くすためには、まずみなさんが、ご近所さんでも顔見知りの人でも、どんな人でも結構ですから、「何かあったら頼むね。」と声をかけてください。

日ごろからの「おつきあい」が大切なのです。



ひとり暮らしのお年寄りが住む地域、そして隣近所のみなさん、**「つながり」**をつくってください！

孤立死を無くすためには、まずひとり暮らしのお年寄りを「孤立させない」ことです。「孤立させない」ということは「誰かとつながる」ということです。

みなさんとお年寄りがつながることもあれば、お年寄りによっては専門機関などへ「つなげる」ことが良い場合もあるでしょう。目配り気配りをするだけでお年寄りのみなさんはつながります。

あいさつができると、そのつながりは「太く」なります。

こうして、お年寄りもみなさんご自身も顔の見える関係がつけられていくのです。

～つながりをつくりましょう～

●千葉県松戸市の常盤平団地自治会が「孤独死ゼロ作戦」の取り組みを通して「学んだこと」が新聞記事に掲載されていたので紹介します。



※2008年1月23日号の東葛まいにち新聞社の記事を引用させていただきました。

孤独死から学んだこと
「死は生のカガミ」

久保「常盤平団地の経験では？」
中沢「孤独死された人たちから多くのことを学びました。まずそういう人は「あいさつしない」「友

達がない」「男性の人なら料理、洗濯ができない」といった「ナイナイづくし」が共通しています。
久保「誰でも独りになってしまうことになりかねません。決して他人事ではない。もっと大事なことを学びました。「死

は生のカガミだ」ということです。つまり「どうよく死ぬか」という生き方にかかわって再認識しました。人間の死亡率は100%です。死は選べないが、生き方は選べるのです。「ひとり暮らしのみ

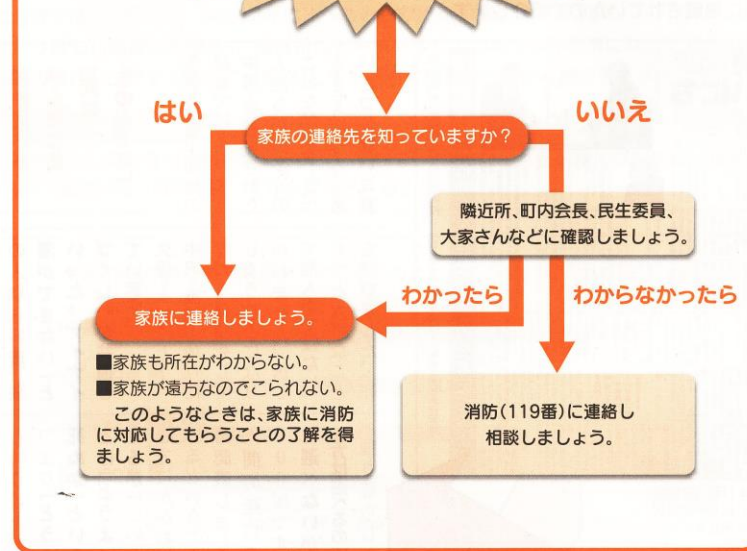
なさん、孤独死予備軍といった状況になることなく、「アルアルづくし」を身につけよう」と訴えたいね。

予防策として
「あいさつ」「仲間作り」「自分のことはじぶんでする」

常盤平団地の取り組み
久保「団地内に「いきいきサロン」をお作りになったそうですね。」
中沢「団地の中央商店の店舗を借りていきいきサロン」を

昨年4月15日に作りました。ここが人々の「憩いの場」となり「交流の場」となっています。気軽にいられて仲間作りにも役立っています。家に引きこもっている人たちが外出する機会にもなっています。一度見学にお出掛け下さい。久保「見守り活動などもよくおやりになられているようですね。」

一人暮らし高齢者の
ようすがおかしい！
緊急事態



●作成にご協力いただいた皆様●

国立大学法人旭川医科大学
北海道警察
旭川市
旭川市医師会
旭川市民生児童委員連絡協議会
旭川市市民委員会連絡協議会福祉部会
東葛毎日新聞社

企画・発行

社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会
(高齢者孤立死防止ガイド作成委員会)

〒070-0035 北海道旭川市5条通4丁目
(旭川市ときわ市民ホール1階)
電話(代表)0166-23-0742
FAX 0166-23-0746